



universität  
wien

# オーストリアにおけるCLIL授業

クリスティアーネ・ダルトンパッファー

*Osaka, November 2019*



# 概略

オーストリアにおける言語教育とCLILの実践



学びのための談話空間としての授業



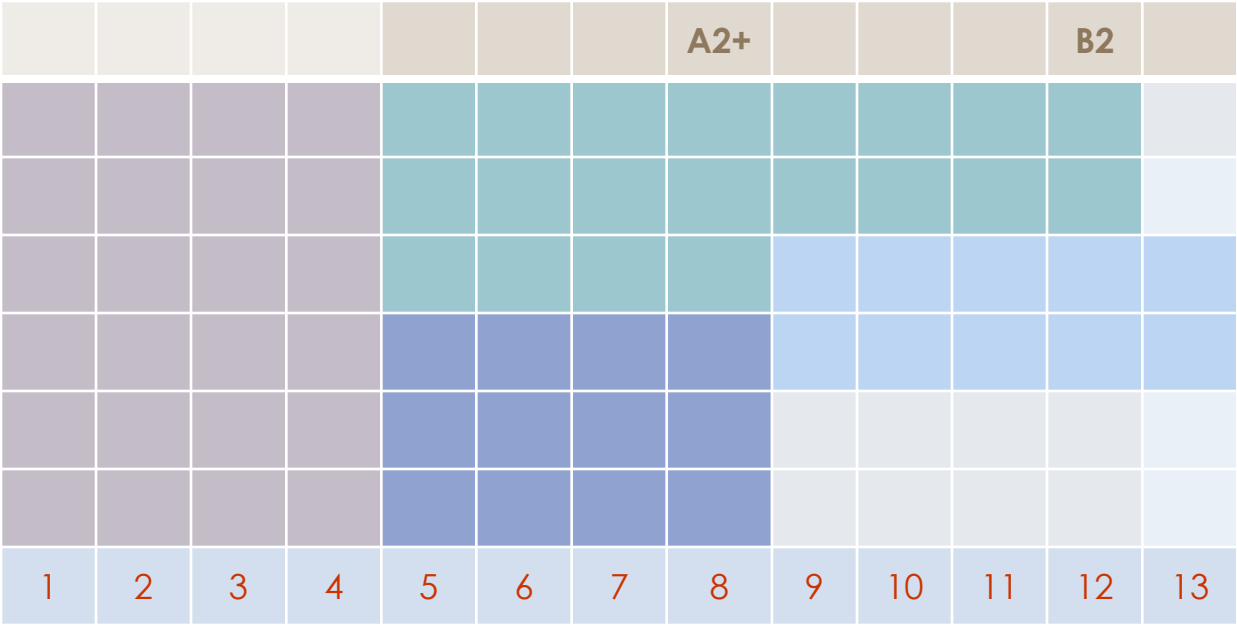
オーストリアのCLILからの実例

# オーストリアにおける言語教育とCLILの実践

# オーストリアにおける言語と教育

- 目標言語のみ使用の状況 — 単一言語のみの学校制度  
ドイツ語 = 状況的に良く話される言語 と 教育で使われる言語
- 合憲的に保障された地域の少数派：  
ハンガリー人、クロアチア人、スロベニア人→二言語で学校教育が提供されなければならない
- 最大の少数派は移民  
バルカン諸国、トルコ、ポーランド、アラブ諸国、フィリピン、中国、等
- 第二言語としてのドイツ語を学ぶ学習者  
(全体の25%、ウィーンでは40%以上、小学校では50%以上)

# オーストリアの学校制度における英語



外国語としての英語

初等 学術部門. 高等学術部門  
 一般部門. 高等専門学校  
 ビジネス - 技術 - 観光 - 健康

その他の外国語: フランス語、スペイン語 / イタリア語、ロシア語、チェコ語、ポーランド語、日本語、中国語

# オーストリアの外国語としての英語の授業

- 3つの短い外国語としての英語の授業のビデオ

# CLIL（内容言語統合型学習）

2元配置で焦点があてられる教育のアプローチ

そこでは、非言語内容を教えたり学んだりする際媒介として付加的な言語が使われる。に  
内容と言語の双方に焦点を当てた教育的アプローチ (Coyle, 2010, p.1)

よく使用されている定義 (2,500回以上も引用されている！)

しかし、上記の定義は、ヨーロッパのCLILの現実を捉えているであろうか？

- 1990年代初頭 計画的に実施
- EU言語政策文書によって承認される: “1+2” 公式, 2004-2006 アクションプラン
- 目標: 二言語教育へのアクセスを拡大, 外国語教授法の刷新
- 同時に: より一層基本スキルとみなされる英語

# ヨーロッパにおけるCLILの実践

- 高い価値のある形式 – 英語が教授のための言語として占めている
- 国家または地方の決まりを持っている国は極めて少ない。
  - オランダ：二言語学校の単位認定システム
  - ドイツ：調整されたカリキュラムの発達：ノルトライン・ヴェストファーレン州、ベルリン、ザクセン
  - イタリア：高等学校における必修CLIL
  - スペイン：地方法律；多くのバイリンガルプログラム
- オーストリア：
  - 学校制度における簡潔な一般条項によって網羅されている
  - 規制はされていないが、一般学術部門に広く行き渡っている
  - 組織：CLIL潮流、個々の教科、CLILプロジェクト
  - 高等専門学校での必修(工学、ビジネス) 11-13学年



# 学びのための談話空間としての授業

# CLIL授業でのスピーチイベント

|  |
|--|
| <b>参加者</b> –<br>相互交流をするメンバー            |
| <b>セッティング</b> –<br>空間的、時間的、身体的の条件で     |
| <b>内容</b> –<br>何が話されているか、または話されていないか   |
| <b>目的</b> –<br>社会的、認知機能                |
| <b>参加の仕組み</b> –<br>交代ですること、参加者の役割とや権利  |
| <b>連続性</b> –<br>順序, 開始, 移行, 終結, 公式化される |

- 長い時間
- 長期間の関係性
- 交流者間の親和性
- 学校制度的な埋め込み
- 公的に

Cf. Hymes (1972) – The 'SPEAKING' heuristic

# LL理論と教室談話

## まとめ

- 互いに異なる学習理論は、教室において言語に異なった重みを与える
- **全ての理論は、LLシナリオの中で教室ディスコースを構成するものを含む**

... 個人の「コミュニケーション力」は次のような場合に学ばれる：

— その人がメンバーとして所属する中での「練習」があること

— 社会的なアイデンティティを感じる、そこへの参加の種類や程度によって、

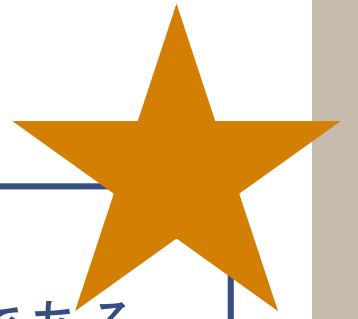
(Hall, 1995: 219)

# 第二言語習得における教室ディスコースの役割

## 教室言語



## 学ばれた言語



### 理論的見解A

- 間接的
- 学習は認知的活動である
- インプット
- 相互交流（やりとり）
- アウトプット

### 理論的見解B

- 直接的
- 学習は社会的なプロセスである
- 互いにジョイントする学習
- シンボリックな道具としての言語
- 対話的な学習
- ZPD 発達の最近接領域
- スキル習得理論

# 言語内容の教授法の全体像

## “言語”教育

インプット  
やりとり  
アウトプット

|             |                 |      |       |
|-------------|-----------------|------|-------|
| テキスト<br>(本) | ティーチャー<br>トーク   | 映画   | イメージ  |
| クラス全体       | 教師-生徒<br>(1対1)  | 生徒多数 | 生徒-生徒 |
| 生徒の発話       | 生徒が書いた<br>テキスト文 | 人工産物 | 描画    |

(現在の第二言語習得理論)

## “理科”教育

受け取り  
行動  
生産する

(Mortimer & Scott 2003)

# オーストリアのCLIL授業からの実例

# オーストリアのCLIL授業からの実例

- a. インプット/受け取り (教師による口頭説明、イメージ、ビデオ)
- b. インターアクション/寸劇 (クラス全体、ペア、グループ)
- c. アウトプット/作品 (テキスト、プレゼンテーション)

教科: 物理、運動、ITと英語、ビジネスと経済学

生徒の年齢: 13歳-18歳

ビデオ録画 by: Schrönkhammer 2015, Gruber 2016, CELT 2013

原文・作品: Bauer-Marschallinger forthc., Stürmer 2018

## a. インプット/受け取り: ティーチャートークとイメージ

- 4つのビデオクリップ

| テキスト<br>(本) | ティーチャートーク      | 映画   | イメージ  |
|-------------|----------------|------|-------|
| クラス全体       | 教師-生徒<br>(1対1) | 生徒多数 | 生徒-生徒 |
| 生徒の発話       | 生徒が書いた<br>原文   | 人工産物 | 描画    |



# 相互交流: クラス全体



交替ですること

訂正

| テキスト<br>(本) | ティーチャー<br>トーク   | 映画   | イメージ  |
|-------------|-----------------|------|-------|
| クラス全体       | 教師-生徒<br>(1対1)  | 生徒多数 | 生徒-生徒 |
| 生徒の発話       | 生徒が書いた<br>テキスト文 | 人工産物 | 描画    |

# 相互交流: クラス全体

- **引き出すこと・質問**

- 質問 (表示質問 vs. 参照質問)

- 教育上の目的:

反応を引き出す、理解を確認する、  
学習者を導く、活動への参加を促進する、  
考えを確認する...

- IRF: 教師が生徒に質問をする – 生徒がその質問に答える – 教師がその答えを評価する

(Initiation)

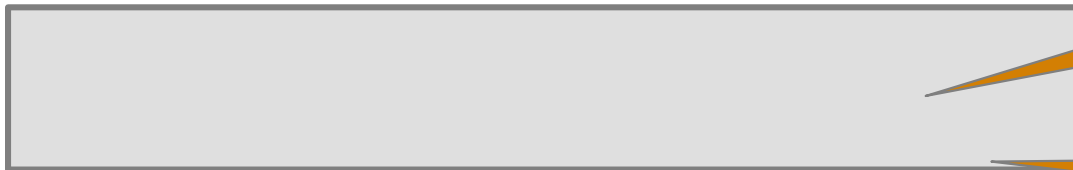
(Response)

(Feedback)

(Mehan 1975, Sinclair & Coulthard 1975)

## • 対話的教授

- 教師-開始 : 教師が生徒に質問をする 「何時ですか。」  
生徒-反応 : 生徒がその質問に答える 「真夜中です。」  
教師-確認をする 「そうですね。」



これを別の言い方で言えますか。

どのように言うことができますか。

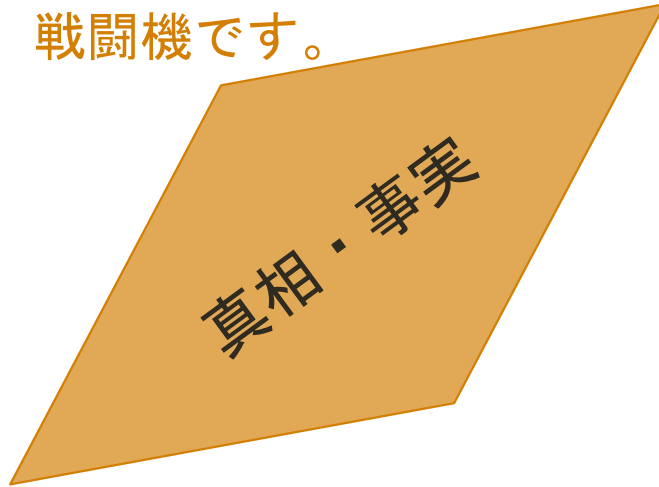
ロミオにとってそれはどんな意味ですか。

## • 教師による質問

→ 生徒のアウトプット形成を助けるための主な方略

教師 あれはどの種類の飛行機かわかりましたか。

生徒 戦闘機です。



教師の質問の種類:  
参照質問  
事実

教師 生産者はどのようにして親に携帯を買わせますか。

生徒 彼らは親たちにこのような感情を抱かせるだろう。もしあなたの子供が携帯を持ったら、たとえあなたが仕事で子供たちのために本当に時間がない時でもあなたは子供に電話をし、近くにいる親のように子供を見守ることができる、と。

教師の質問の種類:  
教訓的な質問？ 参照的な質問？  
理由

# 相互交流 クラス全体：質問

- 3つの短いビデオ

# 相互交流: クラス全体

## 修正

相互交流の中で会話的な「困難」、すなわち「文法的・意味的困難」のような誤り

– 全くなし? 常に? - 学習者の期待は?

– 教育上の目的

– 方法

- (意図的に) 無視する
- 指摘し、訂正する
- 暗にそれとなく示し、学習者に自己修正させる
- 暗にそれとなく示し、他の学習者に気づかせ、間違いを訂正させる

BS&Econ gr11: content-directed repair- transition from questioning into mini-talk CELT 8 31:24-33:10

内容の直接修復: 一質問をするということから、ミニトークへの変換

# 相互交流

- 4つの短いビデオ

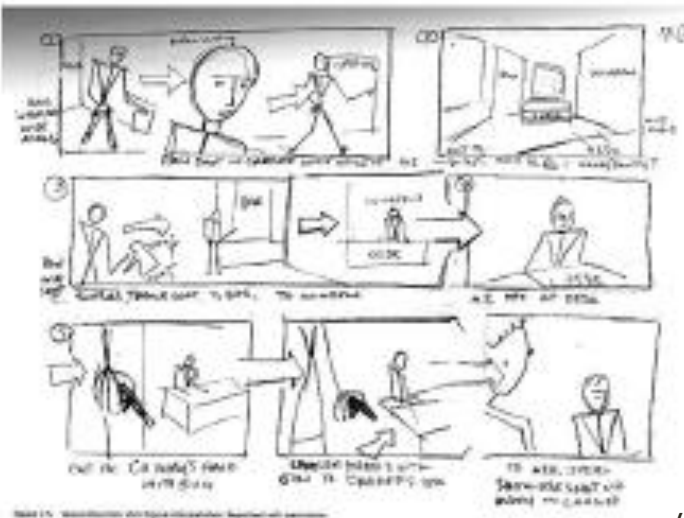
# アウトプット/作品

- 短いビデオ
- 学習者の作成した原文

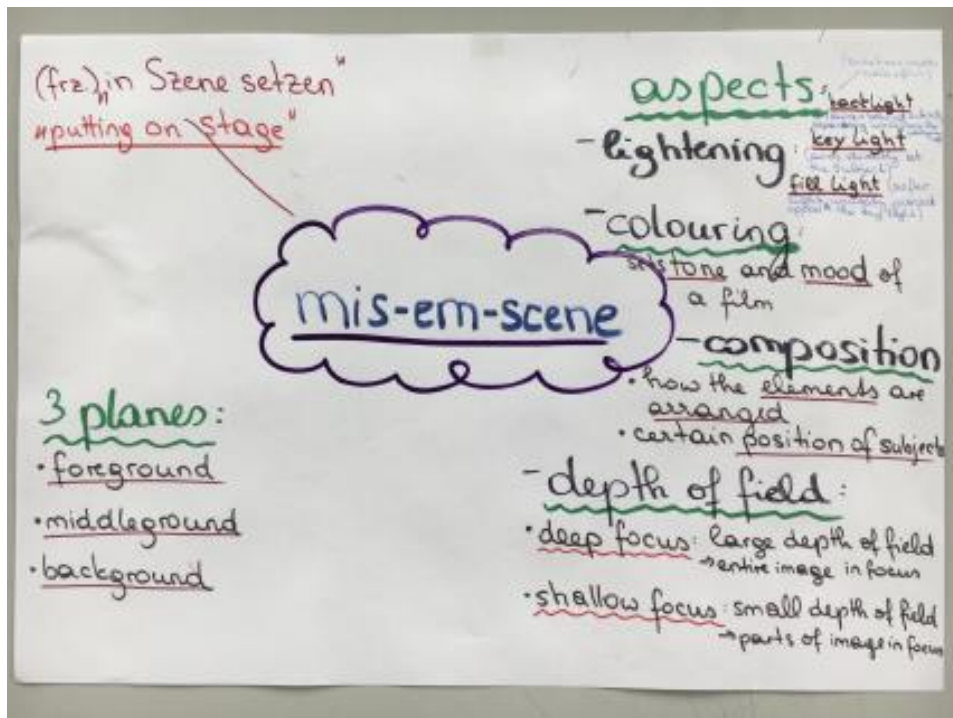
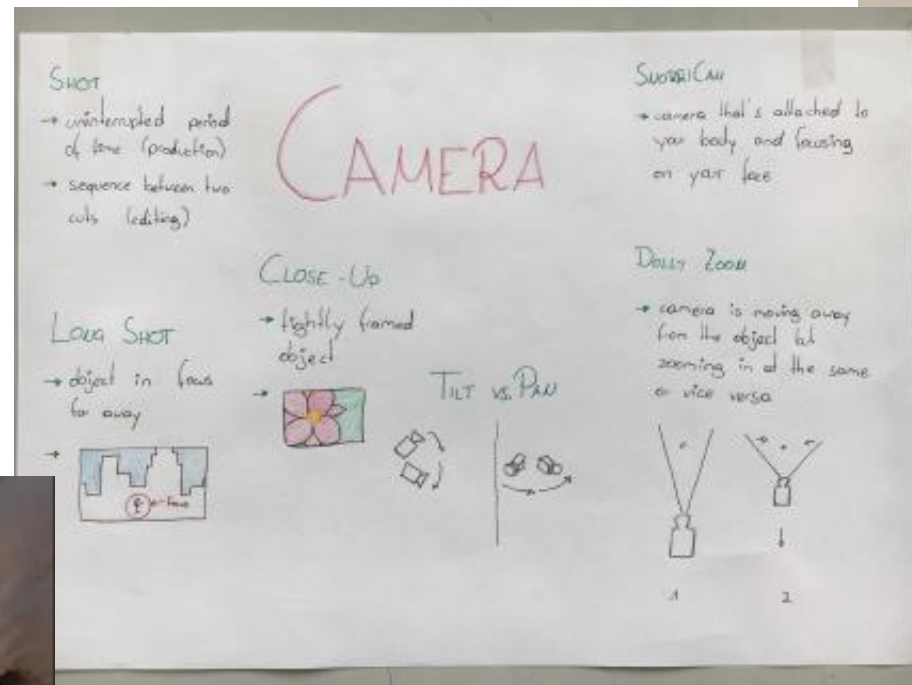
| テキスト（本） | ティーチャー<br>トーク  | 映画   | イメージ  |
|---------|----------------|------|-------|
| クラス全体   | 教師-生徒<br>(1対1) | 生徒多数 | 生徒-生徒 |
| 生徒の発話   | 生徒が書いた<br>原文   | 人工産物 | 描画    |



# アウトプット/作品



(Stürmer 2018)



# CLILにおける 内容と言語の教授法

## “言語”教育

## “理科”教育

|        |             |                |      |       |      |
|--------|-------------|----------------|------|-------|------|
| インプット  | テキスト<br>(本) | 教師の発話          | 映画   | イメージ  | 受け取り |
| やりとり   | クラス全体       | 教師-生徒<br>(1対1) | 生徒多数 | 生徒-生徒 | 行動   |
| アウトプット | 生徒の発話       | 生徒が書いた<br>原文   | 人工産物 | 描画    | 生産する |

(現在の第二言語習得理論)

(Mortimer & Scott 2003)

# オーストリアの事例からの洞察

- CLILの授業は教室で行われる授業である:  
→ 文脈的に、状況的に決定されている

\*CLILとEFLが大きく対象的に違うということに関する、少し前までの反対派

(EFL: English as a foreign Language 外国語としての英語)

- 学習者 と 内容を教える教科の教師:
  - 明確な言及 *— 共通語としての英語と理解する*; EFL教師 (外国語の先生) よりも少ない
  - 言語と知識に関する国際的な言語としての英語 *— 科学とテクノロジー* 国際間コミュニケーション
  - 国際的な専門家コミュニティ *— 実在するものと想定されるもの*  
(Dalton, Hüttner, Smit forthc.)

# CLILによってもたらされること

意味への志向、多様で「本物の」内容

(e.g. Badertscher&B 2009, Smit 2010)

EFLに比べると、あきらかな訂正（間違いについて）が、あまり行われぬ

(cf. Dalton-Puffer 2007, Hampf 2011)

生徒にとって、より多くの談話空間がある

(Nikula 2010, Smit 2010)

「教師による質問(Initiation)→生徒による反応(Response)

→教師による評価(Feedback)」の連続性のあるより多様な構成

(Schindelegger 2010)

IRF (Initiation—Response-Feedback)

「運命共同体効果-（同じボートに乗って漕ぐような）」

—理解力の高い生徒/教師の役割の柔軟性

(Dalton-Puffer et al. 2009)

# CLILの限界点

- クラス全体でのやりとりには、多くの場合限界が見られる  
(→将来的な可能性：英語授業における母語の計画的・積極的活用)
- 口伝え・口頭発話の優勢さ (DP 2007, DP 2013)
- 自分からの意見を言い出す（レポート）ことによる活発な生徒参加が減る
- ユーモア、自発性、多様性、繊細さでは、言語能力によってやや限界がみられ、
- 教授法デザイン – 主にクラス全体 (cf. Badertscher&Bieri 2009)
- 認知的複雑さ？

# 生徒と教師の声

## 成功は「思い切ってすること」

キーワード: 安心感、よりくつろいだ状態、より親しい、抑制がないこと、より喜んで同意してくれる、恐れがない

## 成功は外の世界につながっている

非ドイツ語話者（言葉のことなる人）とインターアクションする能力、  
専門的なアップデートを保つ能力 がつく

## 成功は相対的で動的なもの

生徒は「月ごと」に成長して進み、あるいは、「他の勉強のときより、ずいぶん良くなった」というような状況がよく見られる。

(Dalton-Puffer, Hüttner, Smit 2013)

私は宣伝しようと思っているわけではなけれど、とにかく、それをするのが大好きだ。

むしろ、本当にそれを愛している。

(学習者, 男性, 17歳 工学)

